

両側人工股関節置換術を受けられる患者さまへ

患者様用

患者氏名	様	受持医：	受持看護師：	受持理学療法士：						
月日（日時）	入院日	手術当日	手術後1～2日目	手術後3日目	手術後4～5日目	手術後6日目	手術後7日目	手術後8日目～13日目	手術後14日目	手術後15日目
経過（病日等）	達成目標	達成目標	達成目標	達成目標	達成目標	達成目標	達成目標	達成目標	達成目標	達成目標
	◆治療準備が整う ◆入院、転院、手術の必要性を患者・家族が理解し同意する ◆退院基準を理解し同意する	◆治療準備が整う ◆手術の必要性を、患者・家族が理解し同意する ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールできる ◆脱臼を起こさない ◆手術・麻酔の侵襲による呼吸状態、循環状態が安定している	◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールできる ◆脱臼を起こさない ◆車椅子で移動ができる	◆発熱がない ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールができる ◆脱臼を起こさない ◆車椅子移乗ができる	◆発熱がない ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールができる ◆創部の感染徴候がない ◆脱臼を起こさない ◆車椅子移乗ができる	◆発熱がない ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールができる ◆創部の感染徴候がない ◆脱臼を起こさない ◆歩行器歩行ができる	【転院基準】 ◆発熱がない ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールができる ◆創部の感染徴候がない ◆脱臼を起こさない ◆画像検査上異常所見がない ◆歩行器歩行ができる	◆発熱がない ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールができる ◆創部の感染徴候がない ◆脱臼を起こさない ◆歩行器歩行ができる	◆発熱がない ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールができる ◆創部の感染徴候がない ◆脱臼を起こさない ◆一本杖歩行ができる	【退院基準】 ◆発熱がない ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆患肢の循環障害がない ◆神経障害がない ◆疼痛がコントロールできる ◆創部の感染徴候がない ◆脱臼を起こさない ◆一本杖歩行ができる ◆転院（退院）について患者・家族が理解できる
治療・薬剤 (点滴・内服)	持参されたお薬の確認をします 	麻酔科医の指示で内服薬を調整します (手術が午後の場合、午前中に500mlの点滴があります) 手術後500mlの点滴が3本あります 夕方より痛み止めの内服が開始となります	術後1日目に朝夕、抗菌薬の点滴があります	術後3日目より血液をサラサラにする内服薬が開始となります 						
処置	手術する部位を間違わないように印を付けます 弾性ストッキングのサイズを測ります	手術室に入る前に弾性ストッキングを装着します 術後安静が必要なため、血圧ができないよう足にポンプを装着いたします	術後1日目に足に装着していたポンプを取り外します 弾性ストッキングは歩行できるようになるまで装着いたします		月・水・金で傷のチェックがあります 術後4日目でガーゼが取れます					
検査	採血があります		術後1日目に血液検査があります				血液検査とレントゲン検査があります			
活動・安静度	制限はありません	手術後3時間はベッド上安静です その後身体を起こせます	術後、制限はありません 車椅子に移動できます（看護師が介助いたします）	→	歩行器歩行訓練をします	→	→	一本杖歩行訓練をします		
食事	夕食まで食事ができます	朝食は絶食です 手術後3時間たちましたら、看護師がお腹の動きを確認し飲水できます	通常の食事になります	→						→
清潔	入浴をしていただきます		股関節のガーゼがとれるまでは看護師が身体を拭きます	→	包帯ガーゼがとれましたらシャワー浴が可能となります					
排泄	排便の確認をします	手術後は、尿の管が入っています	尿の管が抜け、介助にてトイレに行けます							
患者様及びご家族への説明 生活指導 リハビリ 栄養指導 服薬指導	入院生活と手術前の説明いたします 麻酔科医師の診察をいたします 手術室看護師が訪問いたします 薬剤師が訪問し、薬について説明いたします 入院費に関するご心配事がありましたら、お早めに医事科6番窓口へご相談ください 手術、輸血、血液製剤に関する同意書を確認いたします	手術後は、主治医より手術の結果と今後の方針について説明いたします	理学療法士にてリハビリを始めます				リハビリの進行に応じて 転院調整を始めます 			退院後の生活について看護師や理学療法士から説明いたします

注) 入院期間については現時点で予想される期間です。